広報資料

マツダ 会社概況 2012

MAZDA COMPANY PROFILE 2012

目　次 Contents

1 はじめに
2 会社の概要と実績
4 役員
5 主な子会社・関連会社
6 研究開発
地域別の活動
7 日本
9 北米
10 中国
11 欧州
13 アジア・大洋州
14 カリブ・中南米・中近東・アフリカ
15 環境・安全技術　デザイン
17 社歴

はじめに

企業ビジョン（1999年12月制定）

マツダは1999年、「企業ビジョン」を制定しました。「企業ビジョン」は、「Vision（企業目標）」、「Mission（役割と責任）」、「Value（マツダが生み出す価値）」の3つの要素で構成され、マツダとマツダの社員が目指すもの、その役割と責任、それをどのような価値観をもって達成するのかを表しています。

Vision

新しい価値を創造し、最高のクルマとサービスにより、お客様に喜びと感動を与え続けます。

Mission

私たちは情熱と誇りとスピードを持ち、積極的にお客様の声を聞き、期待を上回る創意に富んだ商品とサービスを提供します。

Value

私たちは誠実さ、顧客志向、創造力、効率的で迅速な行動を大切にし、意欲的な社員とチームワークを尊重します。
環境と安全と社会に対して積極的に取り組みます。そしてマツダにつながる人々に大きな喜びを提供します。

マツダブランドシンボル（1997年6月制定）

「自らをたゆまず改革し続けることによって、力強く、留まることなく発展していく」というブランドシンボル制定のマツダの決意を、未来に向けて羽ばたくMAZDAの＜M＞の形に象徴しています。

マツダコーポレートマーク（1975年制定）

1975年のCI（Corporate Identity: コーポレート・アイデンティティ）導入を機に、コミュニケーションの核となる企業シンボル（マツダシンボル）として制定しました。その後、1997年のブランドシンボル制定に伴い、可読性を生かした「マツダコーポレートマーク」と位置づけています。

「マツダ」の由来と意味

社名「マツダ」は、西アジアでの人類文明発祥とともに誕生した神、アフラ・マズダー（Ahura Mazda）に由来します。この叡智（えいち）・理性・調和の神を、東西文明の源泉的シンボルかつ自動車文明の始原的シンボルとして捉え、世界平和を希求し自動車産業の光明となることを願って名付けられました。それはまた、自動車事業を始めた松田重次郎（じゅうじろう）の姓にもちなんでいます。

マツダのブランドメッセージ “Zoom-Zoom（ズーム・ズーム）*”

*日本語の「ブーブー」（車が動くときの音）を意味する英語

マツダ独自の創造性と革新性で、子どもの時に感じた動くことへの感動を愛し持ち続ける人々に、「心がときめくドライビング体験」を提供したいというマツダの想いを示した言葉です。

会社の概要と実績

会社概要 (2012年3月31日時点)

社　　名	マツダ株式会社(英訳名: Mazda Motor Corporation)
会 社 設 立	大正9年(1920年)1月30日
本　　社	〒730-8670 広島県安芸郡府中町新地3番1号
代　表　者	代表取締役会長 社長兼CEO 山内 孝
主な事業内容	乗用車・トラックの製造、販売など
株　　式	発行可能株式総数　3,000,000,000株　(2012年6月27日開催の定時株主総会決議により、60億株に変更) 発行済株式総数　2,999,377,399株 株　主　数　116,475名
資　本　金	2,589億5,709万6,762円
従 業 員 数	単体　男性: 19,882名　女性: 1,804名　合計: 21,686名(出向者を含む) 連結　合計: 37,617名
研究開発拠点	本社、マツダR&Dセンター横浜、マツダノースアメリカンオペレーションズ(米国)、 マツダモーターヨーロッパ(ドイツ)、中国技術支援センター(中国)
生 産 拠 点	国　内: 本社工場(本社、宇品)、防府工場(西浦、中関)、三次事業所 海　外: 中国、タイ、米国、メキシコ※1、コロンビア※2、ジンバブエ、南アフリカ、エクアドル、台湾※2、マレーシア※3、ロシア※3、ベトナム※3 (2012年11月時点)
販 売 会 社	国　内: 261社 海　外: 135社 (2011年12月31日時点)
主 要 製 品	四輪自動車、ガソリンレシプロエンジン、ディーゼルエンジン、ロータリーエンジン、自動車用手動／自動変速機

※1 2013年度第4四半期に稼働予定。
※2 一部車種は現地組立(生産台数は公表対象外)。
※3 現地組立のみ(生産台数は公表対象外)。

グローバル生産(暦年)

(2011年12月31日時点)(台)

		2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
グローバル		1,289,478	1,349,392	984,520	1,307,540	1,165,591
	国　内	995,511	1,078,690	717,175	912,836	813,302
	海　外	293,967	270,702	267,345	394,704	352,289

グローバル販売(暦年)

(2011年12月31日時点)(台)

		2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
グローバル		1,335,023	1,351,263	1,160,972	1,285,841	1,206,902
	国　内	254,137	244,623	204,373	223,861	189,990
	北　米	382,768	348,923	281,439	308,228	319,613
	欧　州	311,247	339,969	256,426	217,502	185,322
	中　国	101,900	127,846	179,679	239,709	214,799
	その他	284,971	289,902	239,055	296,541	297,178

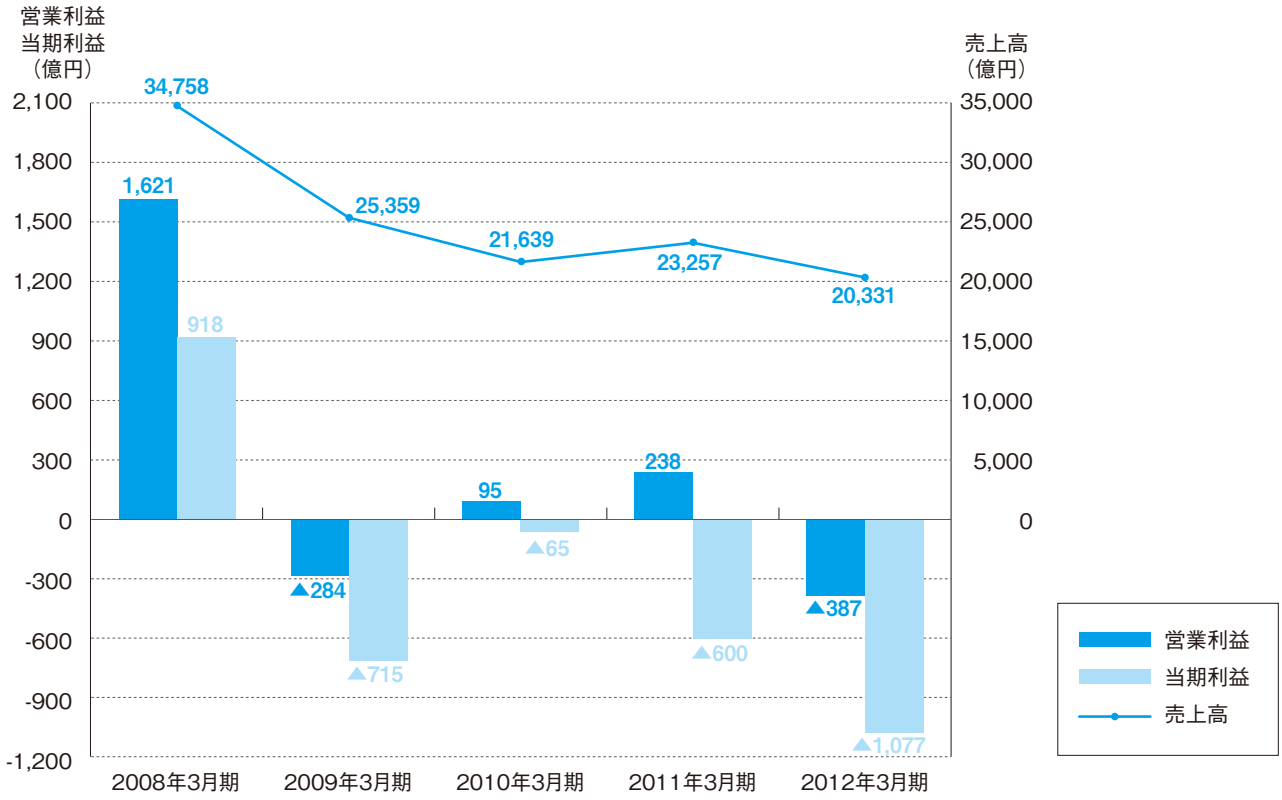
会社の概要と実績

最近の業績（連結ベース）

項目		単位	2008年3月期 ('07.4～'08.3)	2009年3月期 ('08.4～'09.3)	2010年3月期 ('09.4～'10.3)	2011年3月期 ('10.4～'11.3)	2012年3月期 ('11.4～'12.3)
	国内	（億円）	8,801	6,203	5,750	5,415	5,602
	海外	（億円）	25,957	19,156	15,889	17,842	14,729
売上高		（億円）	34,758	25,359	21,639	23,257	20,331
営業利益		（億円）	1,621	△ 284	95	238	△ 387
経常利益		（億円）	1,485	△ 187	46	369	△ 368
税引前当期利益		（億円）	1,431	△ 513	△ 73	161	△ 553
当期利益		（億円）	918	△ 715	△ 65	△ 600	△ 1,077
1株あたり当期利益		（円）	65.21	△ 52.13	△ 4.26	△ 33.92	△ 57.80
設備投資額		（億円）	755	818	298	447	780
減価償却費		（億円）	665	752	764	716	688
研究開発費		（億円）	1,144	960	852	910	917
総資産		（億円）	19,856	18,010	19,478	17,718	19,159
純資産		（億円）	5,542	4,147	5,098	4,305	4,744
有利子負債残高		（億円）	5,050	7,534	7,221	6,930	7,781
純有利子負債残高		（億円）	2,811	5,326	3,758	3,702	3,008
キャッシュフロー		（億円）	102	△ 1,292	674	16	△ 794
生産台数	国内	（千台）	1,047	899	828	867	847
	海外	（千台）	279	235	316	411	338
		（千台）	1,326	1,134	1,144	1,278	1,185
販売台数	国内	（千台）	256	219	221	206	206
	北米	（千台）	406	347	307	342	372
	欧州	（千台）	327	322	239	212	183
	中国	（千台）	101	135	196	236	223
	その他	（千台）	273	238	230	277	263
		（千台）	1,363	1,261	1,193	1,273	1,247

（注）フリーキャッシュフローは、営業活動によるキャッシュフローと投資活動によるキャッシュフローの合計。

業績推移



役員 (2012年9月5日時点)

取締役

代表取締役会長

山内　孝（やまのうち　たかし）

代表取締役

尾崎　清（おざき　きよし）
金井　誠太（かない　せいた）

取締役

原田　裕司（はらだ　ゆうじ）
丸本　明（まるもと　あきら）
小飼　雅道（こがい　まさみち）
金澤　啓隆（かなざわ　ひろたか）
中峯　勇二（なかみね　ゆうじ）
坂井　一郎（さかい　いちろう）
牟田　泰三（むた　たいぞう）

監査役

監査役（常勤）

山本　順一（やまもと　じゅんいち）
見立　和幸（みたて　かずゆき）

監査役

赤岡　功（あかおか　いさお）
平澤　正英（ひらさわ　まさひで）
堀田　隆夫（ほった　たかお）

執行役員

（注）※印は取締役との兼務を示す。

※社長兼CEO(最高経営責任者)	山内　孝（やまのうち　たかし）	
※副社長執行役員兼CFO(最高財務責任者)	尾崎　清（おざき　きよし）	社長補佐、企画領域統括、財務・グローバル監査担当
※副社長執行役員	金井　誠太（かない　せいた）	社長補佐、モノ造り推進・ブランド強化推進・品質担当
※専務執行役員	原田　裕司（はらだ　ゆうじ）	CSR・環境・広報担当、CFO（最高財務責任者）補佐、法人販売補佐
	丸本　明（まるもと　あきら）	経営企画・収益管理・商品戦略・コーポレートブランド強化・コスト革新担当
	小飼　雅道（こがい　まさみち）	生産・購買統括、物流・IT ソリューション担当、モノ造り推進担当補佐
	金澤　啓隆（かなざわ　ひろたか）	研究開発担当、モノ造り推進担当補佐、株式会社マツダE&T 代表取締役社長
	中峯　勇二（なかみね　ゆうじ）	営業領域統括、顧客つながり推進担当、マツダ・サウス・イースト・アジア,Ltd.社長
常務執行役員	ジェームズ・ジェイ・オサリバン（James J. O'Sullivan）	マツダモーターオブアメリカ, Inc.（マツダノースアメリカンオペレーションズ）社長兼CEO
	江川　恵司（えがわ　けいし）	新興国事業（中南米）担当、マツダモトールマヌファクトゥリングデメヒコS.A. de C.V. 社長兼CEO
	稲本　信秀（いなもと　のぶひで）	国内営業・法人販売・カスタマーサービス担当
	黒沢　幸治（くろさわ　こうじ）	秘書・人事・総務・法務・コンプライアンス・リスクマネジメント・病院担当
	ジェフリー・エイチ・ガイトン（Jeffrey H. Guyton）	マツダモーターヨーロッパGmbH社長兼CEO
	山田　憲昭（やまだ　のりあき）	中国事業担当、マツダ（中国）企業管理有限公司董事長兼執行総裁
	今井　一基（いまい　かずき）	購買担当
執行役員	楠橋　敏則（くすはし　としのり）	オートアライアンス（タイランド）Co., Ltd. 社長
	光田　稔（みつだ　みのる）	経営企画・広報担当補佐、渉外担当、東京本社統括（東京駐在）
	中野　雅文（なかの　まさふみ）	品質本部長
	菖蒲田　清孝（しょうぶだ　きよたか）	生産担当、技術本部長、コスト革新担当補佐
	藤原　清志（ふじわら　きよし）	商品企画・プログラム開発推進・デザイン・アセアン戦略推進担当、コスト革新担当補佐
	毛籠　勝弘（もろ　まさひろ）	営業領域統括補佐、顧客つながり推進担当補佐、グローバル販売&マーケティング担当
	古賀　亮（こが　あきら）	マツダモーターオブアメリカ, Inc.（マツダノースアメリカンオペレーションズ）執行副社長（EVP）
	古玉　尚（ふるたま　たかし）	経営企画本部長、コスト革新担当補佐
	フィリップ・ジェイ・ワリング（Philip J. Waring）	マツダモーターヨーロッパGmbH COO セールス&マーケティング
	内田　成明（うちだ　なりあき）	防府工場長
	人見　光夫（ひとみ　みつお）	パワートレイン開発本部長、コスト革新担当補佐
	素利　孝久（そり　たかひさ）	車両開発本部長、コスト革新担当補佐
	圓山　雅俊（まるやま　まさとし）	本社工場長
	藤賀　猛（ふじが　たけし）	人事室長、安全担当補佐
	藤川　和久（ふじかわ　かずひさ）	購買本部長、コスト革新担当補佐
	福原　和幸（ふくはら　かずゆき）	国内営業本部長

主な子会社・関連会社

連結子会社56社 (2012年3月31日時点)

日本における連結子会社 25社

会社名	所有率	業務内容
マツダ中販(株)	100.0%	中古自動車販売
(株)マツダオートザム	100.0%	自動車および部品販売(卸売)
マツダモーターインターナショナル(株)	100.0%	自動車卸売(商社)
マツダエース(株)	100.0%	保険・不動産など
マロックス(株)	100.0%	自動車および部品運送
倉敷化工(株)	75.0%	自動車部品製造販売
マイクロテクノ(株)	100.0%	自動車部品製造販売
(株)マツダE&T	100.0%	特装車製造、開発
トーヨーエイテック(株)	100.0%	工作機械製造販売
マツダパーツ(株)	99.7%	自動車部品の販売
(株)函館マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
(株)東北マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
(株)福島マツダ	100.0%	自動車の販売および修理

会社名	所有率	業務内容
(株)北関東マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
(株)甲信マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
(株)関東マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
静岡マツダ(株)	100.0%	自動車の販売および修理
東海マツダ販売(株)	100.0%	自動車の販売および修理
(株)北陸マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
(株)京滋マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
(株)関西マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
(株)西四国マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
(株)九州マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
(株)南九州マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
沖縄マツダ販売(株)	100.0%	自動車の販売および修理

海外における連結子会社 31社

会社名	所在国	所有率	業務内容
マツダモーターオブアメリカ, Inc.	米国	100.0%	自動車および部品販売(卸売)
マツダカナダ Inc.	カナダ	100.0%	自動車および部品販売(卸売)
マツダモトールデメヒコS. de R.L. de C.V.	メキシコ	100.0%	自動車および部品販売(卸売)
マツダセルヴィシオスデメヒコS. de R.L. de C.V.	メキシコ	100.0%	マツダモトールデメヒコに対する人材サービス
マツダモトールマヌファクトゥリングデメヒコS.A. de C.V.	メキシコ	70.0%	自動車および部品製造販売
マツダモトールオペラシオネスデメヒコS.A. de C.V.	メキシコ	70.0%	マツダモトールマヌファクトゥリングデメヒコに対する人材サービス
マツダモータース(ドイツランド)GmbH	ドイツ	100.0%	自動車および部品販売(卸売)
マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V.	ベルギー	100.0%	自動車および部品販売(卸売)
マツダモーターヨーロッパGmbH	ドイツ	100.0%	欧州市場の事業統括
マツダオトモビルフランスS.A.S.	フランス	100.0%	自動車および部品販売(卸売)
マツダモータースUK Ltd.	イギリス	100.0%	自動車および部品販売(卸売)
マツダスイスS.A.	スイス	100.0%	自動車および部品販売(卸売)
マツダモトールデポルトガルLda.	ポルトガル	100.0%	自動車および部品販売(卸売)
マツダモーターイタリア, S.p.A.	イタリア	100.0%	自動車および部品販売(卸売)
マツダオートモービルズエスパーニャ, S.A .	スペイン	100.0%	自動車および部品販売(卸売)
マツダオーストリアGmbH	オーストリア	100.0%	自動車および部品販売(卸売)
マツダモーターロシア, OOO	ロシア	100.0%	自動車および部品販売(卸売)
マツダオーストラリアPty Ltd.	オーストラリア	100.0%	自動車および部品販売(卸売)
コンパニアコロンビアナアウトモトリスS.A.	コロンビア	100.0%	自動車製造販売
マツダモータースオブニュージーランドLtd.	ニュージーランド	100.0%	自動車および部品販売(卸売)
マツダセールス(タイランド)Co., Ltd.	タイ	96.1%	自動車および部品販売(卸売)
PTマツダモーターインドネシア	インドネシア	100.0%	自動車および部品販売(卸売)
マツダ(中国)企業管理有限公司	中国	100.0%	中国市場の事業統括
マツダモトールドブラジルLtda.	ブラジル	70.0%	自動車および部品販売(卸売)
その他　7社	―	―	―

持分法適用会社13社 (2012年3月31日時点)

日本における持分法適用会社 8社

会社名	所有率	業務内容
(株)日本クライメイトシステムズ	33.3%	自動車部品製造販売
ヨシワ工業(株)	33.3%	自動車部品製造販売
(株)サンフレッチェ広島	21.8%	プロサッカー球団運営

会社名	所有率	業務内容
(株)マツダプロセシング中国	29.0%	納車点検・架装
SMMオートファイナンス(株)	40.0%	自動車小売金融
その他　3社	―	―

海外における持分法適用会社 5社

会社名	所在国	所有率	業務内容
オートアライアンス・インターナショナル, Inc.	米国	50.0%	自動車製造販売
オートアライアンス(タイランド)Co., Ltd.	タイ	50.0%	自動車製造販売
長安フォードマツダ汽車有限公司	中国	15.0%	自動車製造販売
長安フォードマツダエンジン有限公司	中国	25.0%	自動車エンジン製造
一汽マツダ汽車販売有限公司	中国	40.0%	自動車および部品販売(卸売)

研究開発

研究開発拠点

世界の市場動向、先端的な技術動向を迅速かつ的確に把握し、それぞれの市場特性にマッチした個性的でイノベーティブな商品開発を推進しています。そのため、日米欧中に研究開発拠点を置いています。

	名　称	所在地	主な研究内容
日　本	本社　研究開発部門	広島県安芸郡府中町	・商品、技術企画 ・デザイン開発 ・商品開発および育成 ・重要新技術の先行研究
	マツダR&Dセンター横浜	神奈川県横浜市 神奈川区守屋町	・先行商品の企画 ・先行デザインの調査研究、開発 ・重要新技術の先行研究
米　国	マツダノースアメリカン オペレーションズ(略称: MNAO)※1	カリフォルニア州 アーバイン ミシガン州 フラットロック	・北米市場における技術／市場動向などの調査、研究 ・北米市場におけるデザインの開発 ・北米市場における商品適合性評価
欧　州	マツダモーターヨーロッパ(略称: MME)	ドイツ ヘッセン州 オーバーウァゼル	・欧州市場における技術/市場動向などの調査、研究 ・欧州市場におけるデザインの開発 ・欧州市場における商品適合性評価
中　国	マツダ(中国)企業管理有限公司 中国技術支援センター(略称: MCO-CESC)	上海市	・中国市場における技術／市場動向などの調査、研究

※1「マツダモーターオブアメリカ,Inc.」「マツダ・モトール・デ・メヒコS. de R.L. de C.V.」を総称して「マツダノースアメリカンオペレーションズ(MNAO)」と呼んでいる。

総合自動車試験場

名　称	所在地	開　設	土地面積	主な研究内容
三次自動車試験場	広島県三次市	1965年 6月	1,677千㎡	新商品の基本性能開発・育成の拠点として、クルマに要求される、走る・曲がる・止まるの走行テストを実施するとともに、大型の試験設備を駆使して、安全技術、環境技術の開発に取り組んでいます。
美祢自動車試験場	山口県美祢市	2006年 5月	603千㎡	三次自動車試験場にないテストコースを新設し、操縦安定性の限界テスト等、車の商品性向上に寄与しています。
北海道剣淵試験場	北海道上川郡剣淵町	1990年 1月	4,700千㎡	積雪路面での4WD・ABS・TCS※2・DSC※3など、安全走行システムの開発テストや、氷・雪害などに対する技術開発・商品性能向上等、寒冷地特有のテストを行っています。
北海道中札内試験場	北海道河西郡中札内村	2002年 1月	206千㎡	さまざまな気象環境条件の下での、車両の性能を開発するための北海道内2番目の試験場です。主に、凍結路面でのABS・TCS・DSCなどの安全走行システムの開発テストを行っています。

※2 TCS(トラクションコントロールシステム):路面、および走行状況に即応して駆動力を最適化する機構。
※3 DSC(ダイナミック・スタビリティ・コントロール):4輪ABS(アンチロックブレーキシステム)とトラクションコントロールの機能を統合し、エンジン出力制御と4輪個別の制動力を最適に制御することによって、クルマの横滑り防止を図る機構である。滑りやすい路面でのコーナリングや、危険回避のための急ハンドル操作時などにも、安定した走行姿勢を保つ。

地域別の活動

日本

・マツダは、1931年に3輪トラックの生産を開始し、自動車事業をスタートしました。1960年には軽自動車「R360クーペ」の生産を開始し、乗用車部門へ本格的に参入しました。2007年7月には国内生産累計4,000万台を達成しています。

・マツダは国内では広島、防府の2拠点に工場を持ち、人と環境にやさしく、かつ効率的な生産ラインの実現に取り組み、独自のフレキシブルな高品質・同期生産ラインを構築しています。

日本での生産活動 (2011年12月31日時点)

生産拠点概要

所在地	名　称	地　区		生産品目	生産能力	操業開始	土地面積
広島県安芸郡府中町	本社工場	本社		ガソリンレシプロエンジン、自動車用手動変速機		1931年 3月	551千㎡
		宇品	宇品第1(U1)工場	デミオ(5ドアハッチバック、3ドアハッチバック※1)、MPV、CX-9※1、ロードスター、RX-8※2、ベリーサ、ビアンテ、ボンゴバン	274,200台／年	1966年11月	1,685千㎡
			宇品第2(U2)工場	プレマシー、CX-5、CX-7※3	240,600台／年	1972年12月	
				ガソリンレシプロエンジン、ディーゼルエンジン、ロータリーエンジン		1964年12月	
広島県三次市	三次事業所			ガソリンレシプロエンジン		1974年 5月	1,677千㎡
山口県防府市	防府工場	西浦	防府第1(H1)工場	アクセラセダン、アクセラスポーツ	240,600台／年	1982年 9月	792千㎡
			防府第2(H2)工場	アクセラセダン、アテンザセダン、アテンザスポーツ、アテンザスポーツワゴン	240,600台／年	1992年 2月	
		中関		自動車用手動変速機、自動変速機		1981年12月	537千㎡
プレス工業株式会社		尾道工場		ボンゴトラック			

(注) 本社地区には、本社周辺の所在地(渕崎地区)を含む。三次事業所は自動車試験場およびエンジン工場用地の合計。
※1 輸出用のみ。　※2 2012年6月で生産終了。　※3 2012年8月で生産終了。

車種別国内生産台数ー累計

(台)

車　名		2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	生産累計台数
乗用車	デミオ	121,226	206,924	145,384	159,079	152,675	1,802,074
	アクセラ	417,186	396,895	325,002	383,285	303,677	2,974,460
	プレマシー／イクシオン	102,580	106,698	60,125	82,109	97,102	925,089
	アテンザ	109,303	152,980	48,328	76,498	57,403	1,158,382
	MPV	19,380	13,191	7,091	6,812	6,206	1,074,797
	CX-5	-	-	-	-	3,777	3,777
	CX-7	72,648	60,641	35,831	89,099	98,333	417,364
	CX-9	40,789	44,415	29,104	50,157	45,064	215,832
	ロードスター	37,022	22,886	19,341	20,554	14,995	912,091
	RX-8	13,833	8,237	2,970	2,801	1,233	191,187
	ベリーサ	14,103	11,801	10,271	10,381	7,801	97,005
	ビアンテ	-	13,557	9,031	12,148	9,794	44,530
	トリビュート／エスケープ	300	500	1,120	400	-	121,516
	その他	3,920	0	0	0	0	22,120,237
計		952,290	1,038,725	693,598	893,323	798,060	32,058,341
商用車	ボンゴ(バン・トラック)	33,627	33,334	19,164	17,311	15,242	1,993,463
	ボンゴブローニイ(バン・トラック)	5,350	4,173	2,677	1,457	-	860,308
	タイタン・タイタンダッシュ	4,244	2,458	1,736	745	-	1,723,153
	その他	0	0	0	0	-	7,394,844
計		43,221	39,965	23,577	19,513	15,242	11,971,768
総合計		995,511	1,078,690	717,175	912,836	813,302	44,030,109
内数	ロータリーエンジン搭載車	13,833	8,237	2,970	2,801	1,233	1,995,234
	ディーゼルエンジン搭載車	86,807	92,004	61,663	75,270	47,729	4,820,709

日本での販売活動

主要販売網

(2011年12月31日時点)

	販売会社数	店舗数
マツダ系	41	814
マツダアンフィニ系	10	32
マツダオートザム系	210	234
合　計	261	1,080

チャネル別販売車種

	登録乗用車								
	デミオ	アクセラ	プレマシー	アテンザ	MPV	CX-5	ロードスター	ベリーサ	ビアンテ
マツダ系 マツダアンフィニ系	●	●	●	●	●	●	●	●	●
マツダオートザム系	●	●	●		●	●		●	●

	軽乗用車					商用車			
	キャロル	AZワゴン／フレア	フレアワゴン	AZ-オフロード	スクラムワゴン	ボンゴ	タイタン	ファミリアバン	スクラムバン・トラック
マツダ系 マツダアンフィニ系	●	●	●	●	●	●	●	●	●
マツダオートザム系	●	●	●	●	●	●			●

車名別販売台数

(2011年12月31日時点)(台)

	車　名	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	
乗用車	デミオ	65,480	64,997	55,614	65,950	61,735	
	アクセラ	22,978	16,646	26,769	26,725	18,927	
	プレマシー	26,130	21,881	15,202	25,553	20,437	
	アテンザ	7,663	15,853	7,398	7,105	4,588	
	MPV	20,525	13,435	7,033	6,239	4,908	
	CX-7	5,046	1,333	572	641	568	
	ロードスター	3,845	1,858	1,947	1,120	1,104	
	RX-8	4,184	3,270	1,515	963	938	
	ベリーサ	13,850	11,910	10,162	10,609	7,575	
	ビアンテ	-	11,037	10,864	11,909	9,659	
	その他	0	0	0	0	0	
	登録車	169,701	162,220	137,076	156,814	130,439	
	キャロル	8,236	8,540	8,243	11,516	10,081	
	AZ-ワゴン	29,214	31,327	27,428	24,786	21,673	
	AZ-オフロード	568	561	485	398	487	
	スクラムワゴン	3,314	3,373	2,484	2,215	2,824	※4
	その他	2,451	1,538	1	0	0	
	軽自動車	43,783	45,339	38,641	38,915	35,065	
計		213,484	207,559	175,717	195,729	165,504	
商用車	ボンゴ(バン・トラック)	15,026	14,209	9,872	10,170	9,240	
	タイタン・タイタンダッシュ	7,503	5,775	4,061	2,997	2,173	
	ファミリア(バン)	3,830	3,505	2,742	2,881	2,575	
	その他	2,309	1,599	1,359	1,002	75	
	登録車	28,668	25,088	18,034	17,050	14,063	
	スクラム(バン・トラック)	11,985	11,976	10,622	11,082	10,423	※4
	軽自動車	11,985	11,976	10,622	11,082	10,423	
計		40,653	37,064	28,656	28,132	24,486	
総合計		254,137	244,623	204,373	223,861	189,990	

(注) 一部速報値を確報値に更新。フォードブランド車は除く。
※4 スクラムワゴンは2007年1月より商用車から乗用車に分類変更した。

輸出活動

(2011年12月31日時点)

仕向け地域別輸出台数

(台)

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
北米	289,072	271,787	206,628	290,660	262,392
ヨーロッパ	300,196	352,931	190,133	206,785	182,905
オセアニア	68,250	78,734	68,978	73,370	83,882
その他	145,458	178,066	94,087	159,124	121,398
中近東	56,425	73,437	34,692	56,533	27,524
アジア	13,912	38,435	23,584	47,605	38,028
アフリカ	15,783	13,693	6,361	9,014	5,010
中南米	59,338	52,501	29,450	45,972	50,836
総合計	802,976	881,518	559,826	729,939	650,577

車名別輸出台数

(台)

	車　名	海外名	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
乗用車	デミオ	Mazda2	56,753	139,200	92,418	89,872	91,010
	アクセラ	Mazda3	397,953	384,724	295,594	356,611	284,561
	プレマシー	Mazda5	79,845	85,285	44,823	54,825	59,015
	アテンザ	Mazda6	105,335	136,304	42,095	68,457	53,298
	MPV	Mazda8	353	406	179	678	938
	CX-5	Mazda CX-5	-	-	-	-	3,486
	CX-7	Mazda CX-7	69,052	60,168	34,597	87,635	98,507
	CX-9	Mazda CX-9	41,201	45,422	28,761	49,685	45,173
	ロードスター	Mazda MX-5 ※5	33,870	21,625	17,185	19,146	14,327
	RX-8	Mazda RX-8	10,050	5,317	1,454	1,845	262
	トリビュート／エスケープ	Mazda Tribute／Ford Escape	300	440	1,180	400	0
	その他	Others	4,180	0	0	0	0
計			798,892	878,891	558,286	729,154	650,577
商用車計			4,084	2,627	1,540	785	0
総合計			802,976	881,518	559,826	729,939	650,577

(注) 海外生産用部品(KDセット)を除く。
※5 北米向けには「Miata」のサブネームがつく。

北米

・1971年、マツダは米国に現地法人を設立し、米国でのマツダ車の販売を開始しました。

・2011年の米国での販売台数は前年実績を9.1%上回る約25万台となり、シェアは前年と変わらず2.0%となりました。

・2011年のカナダでの販売台数は約7万台となり、シェア4.4%となりました。

・2011年のメキシコでの販売台数は前年を18.9%上回り過去最高となる約3万台を記録し、シェアも過去最高となる3.3%を記録しました。

・米国とカナダでは、2011年秋からSKYACTIV-G（ガソリンエンジン）とSKYACTIV-Drive（オートマチックトランスミッション）を組み合せて搭載した「Mazda3」のマイナーチェンジモデル（2012年モデル）の販売を開始しました。

・メキシコでは、住友商事と合弁で車両およびエンジン工場を建設し、2013年度第4四半期より稼働する予定です。

統括拠点

（2011年12月31日時点）

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	主な業務内容	資本構成
米　国	マツダノースアメリカンオペレーションズ Mazda North American Operations （略称:MNAO）※1	❶ カリフォルニア州 アーバイン ❷ ミシガン州フラットロック	1997年10月	―	自動車・部品の卸売販売、北米市場における技術動向などの調査・研究、デザインの開発、商品適合性評価	―

※1「マツダモーターオブアメリカ, Inc.」「マツダ・モトール・デ・メヒコS. de R.L. de C.V.」を総称して「マツダノースアメリカンオペレーションズ（MNAO）」と呼んでいる。

生産拠点

（2011年12月31日時点）

国／地域名	名　称	所在地	マツダ車生産開始時期	従業員数	主な生産車種	資本構成
米　国	❷ オートアライアンス・インターナショナル,Inc. AutoAlliance International, Inc.（略称:AAI）	ミシガン州 フラットロック	1987年　9月 ※2	1,857名	アテンザ ※3	マツダ　50% フォード　50%
メキシコ	❸ マツダ モトール マヌファクトゥリング デ メヒコS.A. de C.V. Mazda Motor Manufacturing de Mexico S.A. de C.V. （略称:MMMdM）	グアナファト州 サラマンカ	― ※4	― ※5	― ※6	マツダ　70% 住友商事　30%

※2 マツダモーターマニュファクチャリングUSAコーポレーション（略称: MMUC）としてマツダ車生産開始。1992年6月に現社名に名称変更。
※3 2012年8月に生産を終了。　※4 合弁会社の設立は2011年9月。2013年度第4四半期からの操業開始に向け、現在建設中。　※5 安定時に約3,000人を計画。
※6 デミオ、アクセラを生産予定。

販売拠点

（2011年12月31日時点）

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
米　国	マツダモーターオブアメリカ,Inc. Mazda Motor of America, Inc.	カリフォルニア州アーバイン	1971年　2月	798名	マツダ　100%
カナダ	マツダカナダ Inc. Mazda Canada Inc.	オンタリオ州リッチモンドヒル	1968年　7月	126名	マツダ　100%
メキシコ	マツダ・モトール・デ・メヒコS. de R.L. de C.V. Mazda Motor de Mexico S. de R.L. de C.V.	メキシコシティ	2004年12月	36名	マツダ　99% マツダモーターインターナショナル 1%

生産台数

（2011年12月31日時点）（台）

		2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
米　国	AAI	54,335	74,959	32,065	45,138	39,546
	フォード カンザスシティ工場	23,785	15,907	7,396	9,273	3,977
合　計		78,120	90,866	39,461	54,411	43,523

販売台数

（2011年12月31日時点）（台）

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
米　国	296,109	263,949	207,767	229,566	250,426
カナダ	86,659	84,974	73,672	78,662	69,187
メキシコ	16,604	21,997	18,914	25,117	29,860
合　計	399,372	370,920	300,353	333,345	349,473

市場および ディストリビューター数

（2011年12月31日時点）

地域	北米	
市場	ディストリビューター数	拠点数
米　国	1	635
カナダ	1	165
メキシコ	1	32
合　計	3	832

主要販売車種

地域	北米		
市場	米国	カナダ	メキシコ
デミオ	●	●	●
アクセラ	●	●	●
プレマシー	●	●	●
アテンザ	●	●	●
CX-5	●	●	
CX-9	●	●	●
ロードスター	●	●	●

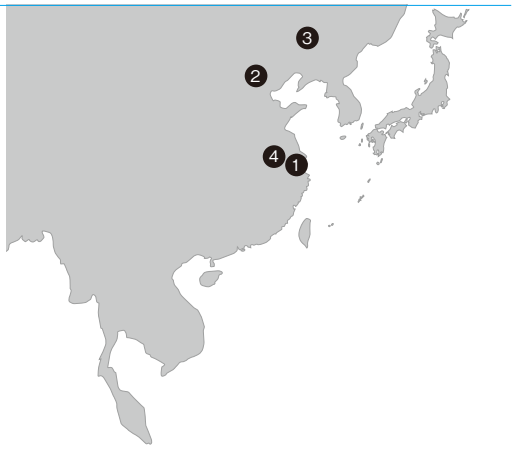
中国

・マツダは2001年より本格的に中国市場に進出し、2007年には「生産」「販売」「商品」の基盤整備がほぼ完了しました。

・マツダ（中国）企業管理有限公司では、2つの販売チャネルである「一汽マツダ」「長安マツダ」を統括し、統一したブランド戦略を展開しています。

・2011年の生産台数は約21.2万台、販売台数は約21.5万台となり、ともに2年連続で20万台を超えました。

・2011年夏には新型「Mazda3セダン:中国名／Mazda3　星骋（Xingcheng）」を発売しました。



統括拠点

（2011年12月31日時点）

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	主な業務内容	資本構成
中　国	❶ マツダ（中国）企業管理有限公司 Mazda Motor (China) Co., Ltd.（略称:MCO）	上海市 浦東新区	2005年 1月	104名	中国市場の事業統括	マツダ 100%
	❷ マツダ（中国）企業管理有限公司　北京分公司 Mazda Motor (China) Co., Ltd. Beijing Branch （略称:MCO-Beijing）	北京市 朝陽区	2007年 11月		MCO支社	—
	❶ マツダ（中国）企業管理有限公司　中国技術支援センター Mazda Motor (China) Co., Ltd. China Engineering Support Center（略称:MCO-CESC）	上海市 嘉定区	2005年 8月		MCO支社・事務所・ワークショップ 技術動向などの調査、研究、およびR&D、購買、品質、サービス領域の技術支援	—

生産拠点

（2011年12月31日時点）

国／地域名	名　称	所在地	マツダ車 生産開始時期	従業員数	主な生産車種	資本構成
中　国	❸ 一汽乗用車有限公司 FAW Car Co., Ltd.（略称:FCC）	吉林省 長春市	2003年3月	—	アテンザ、MPV	現地　100%
	❹ 長安フォードマツダ汽車有限公司 南京公司 Changan Ford Mazda Automobile Co., Ltd. Nanjing Company（略称:CFMA-Nanjing）※1	江蘇省 南京市	2007年10月	3,971名	デミオ、アクセラ	長安汽車 50% フォード　35% マツダ　15%
	❹ 長安フォードマツダエンジン有限公司 Changan Ford Mazda Engine Co., Ltd.（略称:CFME）	江蘇省 南京市	2007年4月 （2005年9月設立）	2,017名	自動車用エンジン	長安汽車 50% マツダ　25% フォード　25%

※1 2012年11月、長安マツダ汽車有限公司（略称:CMA）として存続分立。

販売拠点

（2011年12月31日時点）

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
中　国	一汽マツダ汽車販売有限公司 FAW Mazda Motor Sales Co., Ltd.（略称:FMSC）	吉林省 長春市	2005年　3月	311名	一汽乗用車　56% マツダ　40% 第一汽車集団　4%
	長安フォードマツダ汽車有限公司 販売分公司 長安マツダ事業部 Changan Ford Mazda Automobile Co., Ltd. Sales Branch Office, Changan Mazda Division（略称:CAM）	北京市 朝陽区 ※2	2007年　4月	170名	長安フォードマツダ汽車有限公司の販売部門

※2 2012年1月より所在地は江蘇省南京市に移転

生産台数

（2011年12月31日時点）（台）

		2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
中　国	一汽乗用車	57,661	65,670	101,844	139,635	128,325
	長安フォードマツダ汽車	40,087	39,695	71,944	88,950	84,142
	一汽海馬汽車 ※3	12,141	—	—	—	—
合　計		109,889	105,365	173,788	228,585	212,467

※3 一汽海馬汽車は2007年12月に契約終了。

販売台数

（2011年12月31日時点）（台）

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
中　国	101,900	127,846	179,679	239,709	214,799

市場および ディストリビューター数（2011年12月31日時点）

市　場	ディストリビューター数	拠点数
中　国	2	365

主要販売車種

市　場	中　国
デミオ	●
アクセラ	●
プレマシー	●
アテンザ	●
MPV	●
CX-5	●
CX-7	●
ロードスター	●

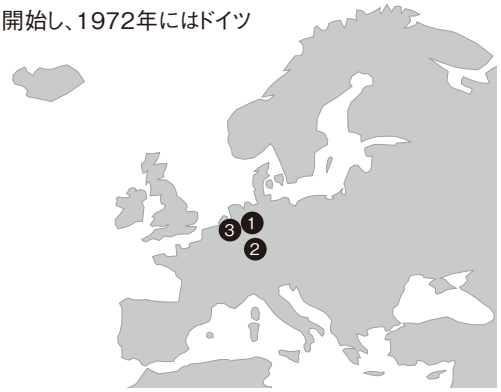
地域別の活動

欧州

・マツダは1967年より欧州でのマツダブランド車の販売を開始し、1972年にはドイツに現地法人を設立しました。

・2000年頃より欧州主要国で販売網の再構築に着手しました。主要国のディストリビューターをマツダ直轄下に置き、販売・マーケティング活動の効率化や欧州での一貫した戦略・施策を推し進めています。

・2012年10月にソラーズ社との合弁工場で、「SKYACTIV技術」搭載車である「Mazda CX-5」の生産を開始しました。



統括拠点

（2011年12月31日時点）

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	主な業務内容	資本構成
ドイツ	❶ マツダモーターヨーロッパGmbH Mazda Motor Europe GmbH（略称:MME）	ノルトラインウエスト ファーレン州レバークーゼン	1998年　3月	291名	事業所 販売	マツダモーター ロジスティクス ヨーロッパN.V. 100%
	❷ (European R&D Centre)	ヘッセン州オーバーウァゼル	1987年12月	82名	研究開発	
ベルギー	❸ マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V. Mazda Motor Logistics Europe N.V. (Vehicles and Parts Distribution Center)	アントワープ州ウィルブローク	1998年　8月	375名	事業所 物流、販売	マツダ　100%

生産拠点

国／地域名	名　称	所在地	マツダ車 生産開始時期	従業員数	主な生産車種 ※1	資本構成
ロシア	❹ マツダソラーズマヌファクトゥリングルース MAZDA SOLLERS Manufacturing Rus（略称:MSMR）	プリモリスキー州 ウラジオストク	2012年10月	約3,000名	CX-5	マツダ　50% ソラーズ　50%

（注）2012年9月、操業開始時のデータ。　※1 将来的にはアテンザの生産も行う計画。

販売拠点

（2011年12月31日時点）

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
ドイツ	マツダモータース(ドイツランド) GmbH Mazda Motors (Deutschland) GmbH	ノルトラインウエスト ファーレン州レバークーゼン	1972年11月	140名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
オーストリア	マツダオーストリアGmbH Mazda Austria GmbH	クラーゲンフルト	1981年　7月	104名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
ポルトガル	マツダモトールデポルトガルLda. Mazda Motor de Portugal Lda.	リスボン	1995年　2月	22名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
イタリア	マツダモーターイタリア,S.p.A. Mazda Motor Italia S.p.A.	ローマ	1999年12月	50名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
スペイン	マツダオートモービルズエスパーニャ,S.A. Mazda Automoviles Espana, S.A.	マドリッド	2000年　2月	48名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
フランス	マツダ オトモビル フランスS.A.S Mazda Automobiles France S.A.S	イヴリーヌ県 サン・ジェルマン・アン・レイ	2001年　2月	43名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
スイス	マツダスイスS.A. Mazda (Suisse) S.A.	プチランシー	2001年　2月	40名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
イギリス	マツダモータース UK Ltd. Mazda Motors UK Ltd.	ケント州ダートフォード	2001年　5月	93名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
デンマーク	マツダモーターデンマーク Mazda Motor Danmark	レズオウア	2003年　4月	16名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
ノルウェー	マツダモーターノルウェー Mazda Motor Norge	コルボン	2004年　4月	11名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
スウェーデン	マツダモータースウェーデン Mazda Motor Sweden	クングスバッカ	2004年　4月	16名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店

販売拠点

（2011年12月31日時点）

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
ロシア	マツダモーターロシア,OOO Mazda Motor Rus, OOO	モスクワ	2005年12月	62名	マツダ　100%
アイルランド	マツダモーターアイルランド Mazda Motor Ireland	ダブリン	2006年 7月	6名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
チェコ	マツダモーターチェコ Mazda Motor Czech	プラハ	2006年10月	14名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
スロバキア	マツダモータースロバキア Mazda Motor Slovakia	ブラチスラバ	2006年10月	5名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
ベルギー・ ルクセンブルク	マツダモーターベラックス Mazda Motor Belux	ウィルブローク	2007年 4月	25名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
ハンガリー	マツダモーターハンガリー Mazda Motor Hungary Kft.	ブダペスト	2008年 4月	12名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパ N.V.　100%
クロアチア	マツダモータークロアチア Mazda Motor Croatia d.o.o.	ザグレブ	2008年 4月	12名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパ N.V.　100%
スロベニア	マツダモータースロベニア Mazda Motor Slovenija d.o.o.	リュブリャナ	2008年 4月	10名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパ N.V.　100%
ポーランド	マツダモーターポーランド Mazda Motor Poland	ワルシャワ	2008年 5月	18名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
トルコ	マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V. メルケジ・ベルチカ・トゥルキェ・イスタンブル・シュベシィ Mazda Motor Logistics Europe N.V.. Merkezi Belcika Turkiye Istanbul Subesi	イスタンブール	2008年 6月	12名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
オランダ	マツダモーターネーデルランド Mazda Motor Nederland	ワディンクスフェーン	2008年10月	28名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店

生産台数

（2011年12月31日時点）（台）

		2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
スペイン	フォード バレンシア工場※2	14,235	―	―	―	―

※2 2007年6月に生産終了

販売台数

（2011年12月31日時点）（台）

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
欧　州	311,247	339,969	256,426	217,502	185,324

市場およびディストリビューター数

（2011年12月31日時点）

	市場	ディストリビューター数	拠点数
欧　州	41	31	2,192

主要販売車種

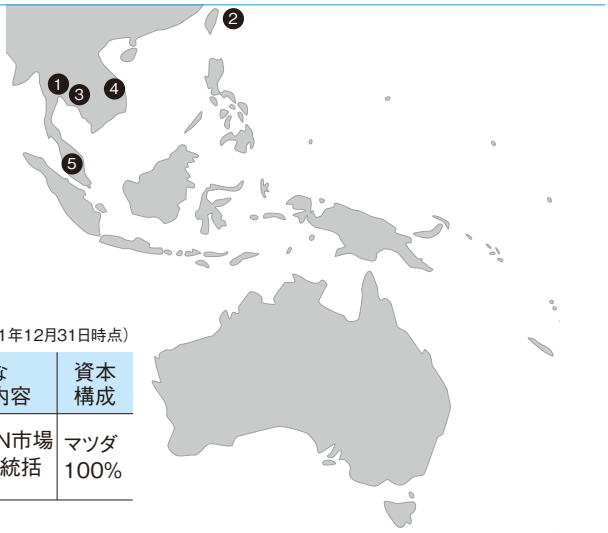
地　域	欧　州							
市　場	ドイツ	ロシア	イギリス	オーストリア	スイス	フランス	イタリア	スペイン
デミオ	●	●	●	●	●	●	●	●
アクセラ	●	●	●	●	●	●	●	●
プレマシー	●	●	●	●	●	●	●	●
アテンザ	●	●	●	●	●	●	●	●
CX-5	●	●	●	●	●	●	●	●
CX-9		●						
ロードスター	●	●	●	●	●	●	●	●

アジア・大洋州

・マツダは、1998年よりタイにおけるフォードとの合弁生産工場オートアライアンス（タイランド）（AAT）において、ピックアップトラックの現地生産を開始し、2009年9月よりMazda2、2011年1月よりMazda3の生産を開始しています。

・2011年の販売は、オーストラリアで約8.8万台となり、マツダで最も高いシェア8.8%を獲得し、過去最高の販売台数とシェアとなりました。またタイ、インドネシア、マレーシアでも、暦年として過去最高の販売台数とシェアを記録しました。

・2011年には、マレーシアとベトナムで現地組立による生産を開始しました。



統括会社

（2011年12月31日時点）

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	主な業務内容	資本構成
タ　イ	❶ マツダサウスイーストアジアリミテッド Mazda South East Asia, Ltd.（略称:MSEA）	バンコク	2005年8月	―	ASEAN市場の事業統括	マツダ 100%

生産拠点

（2011年12月31日時点）

国／地域名	名　称	所在地	マツダ車生産開始時期	従業員数	主な生産車種	資本構成
台　湾	❷ 福特六和汽車股份公司 Ford Lio Ho Motor Co., Ltd.（略称:FLH）	中歴市	1987年　3月	―	プレマシー、アクセラ	フォード 70% 現　地 30%
タ　イ	❸ オートアライアンス（タイランド）Co., Ltd. AutoAlliance (Thailand) Co., Ltd.（略称:AAT）	ラヨーン県 イースタン・シーボード工業団地	1998年　5月※1（1995年11月設立）	6,273名	デミオ、アクセラ、BT-50	マツダ 50% フォード 50%
ベトナム	❹ ヴィナマツダCo.,LTD Vina Mazda Automobile Manufacturing Co.,LTD	クアンナム省 ヌイタン地区	2011年10月	―	デミオ、アクセラ※2	現　地 100%
マレーシア	❺ マツダ・マレーシア Sdn. Bhd. Mazda Malaysia Sdn. Bhd.	スランゴール州 シャーアラム	2012年9月設立 ※3	30名	アクセラ	マツダ 70% 現　地 30%

（注）ヴィナマツダ社とマツダマレーシア社は現地組立のみ（生産台数は公表対象外）。両社のデータは2012年9月時点。
※1 乗用車は2009年9月に生産開始。　※2 2012年4月に現地組立を開始している。
※3 マツダマレーシア社を設立する以前の2011年3月より、現地資本に委託した組立事業を開始している。

販売拠点

（2011年12月31日時点）

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
オーストラリア	マツダオーストラリアPty Ltd. Mazda Australia Pty Ltd.	ビクトリア州 マウントウエイバリー	1967年　4月	227名	マツダ 100%
ニュージーランド	マツダモータースオブニュージーランドLtd. Mazda Motors of New Zealand Ltd.	オークランド市 マウントウエリントン	1972年　6月	27名	マツダ 100%
タ　イ	マツダセールス（タイランド）Co., Ltd Mazda Sales (Thailand) Co., Ltd.	バンコク	1990年　6月	95名	マツダ 96.1% KKS 3.9%
インドネシア	PT. マツダモーターインドネシア PT. Mazda Motor Indonesia	ジャカルタ	2006年　2月	42名	マツダ 99.96% MSEA 0.04%

生産台数

（2011年12月31日時点）（台）

		2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
台　湾	福特六和汽車	14,097	6,062	9,491	6,977	3,471
タ　イ	オートアライアンス（タイランド）Co., Ltd.	51,876	48,238	29,408	87,348	75,630
フィリピン	フォードフィリピン	285	200	180	―	―
マレーシア	アソシエーティッドモータース ※4	190	148	―	―	―
インド	スワラジマツダ ※5	2,939	―	―	―	―

※4 アソシエーティッドモータースインダストリー社は2008年3月に契約終了。
※5 スワラジマツダ社とは2005年8月に資本関係を解消。

主要販売車種

地　域	アジア					オセアニア	
市　場	タイ	台湾	インドネシア	マレーシア	フィリピン	オーストラリア	ニュージーランド
デミオ	●	●	●	●	●	●	●
アクセラ	●	●		●	●	●	●
プレマシー		●					
アテンザ		●	●	●	●	●	●
MPV			●	●			
CX-5		●	●	●	●	●	●
CX-9	●	●	●	●	●	●	●
ロードスター	●		●	●	●	●	●
ビアンテ			●				
BT-50	●		●	●	●	●	●

販売台数

（2011年12月31日時点）（台）

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
アジア ※6（中国以外）	43,740	31,942	33,696	66,980	79,518
オセアニア	85,883	88,512	84,614	92,149	95,144

※6 台湾含む。

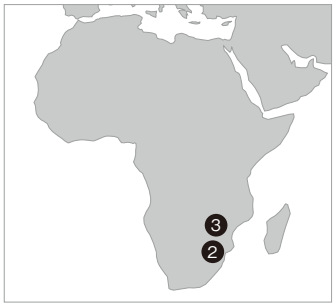
市場およびディストリビューター数

（2011年12月31日時点）

	市場数	ディストリビューター数	拠点数
アジア（中国以外）※6	12	12	302
オセアニア	14	14	177

※6 台湾含む。

カリブ・中南米※・中近東・アフリカ ※メキシコを除く(北米のページ参照)



マツダ事務所

(2011年12月31日時点)

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	主な業務内容	資本構成
アラブ首長国連邦(UAE)	❶ マツダ中近東事務所 Mazda Representative Office (Middle East)	ドバイ	1982年 3月	5名	販売店への販売・サービス支援・指導業務	―

生産拠点

(2011年12月31日時点)

国／地域名	名　称	所在地	マツダ車生産開始時期	従業員数	主な生産車種	資本構成
南アフリカ	❷ フォードモーターカンパニーオブサザンアフリカ(Pty.) Ltd. Ford Motor Company of Southern Africa (Pty.) Ltd.(略称:FMCSA)	プレトリア	1963年 6月	―	BT-50	フォード 100%
ジンバブエ	❸ ウィローベールマツダモーターインダストリーズ Willowvale Mazda Motor Industries (PVT) Ltd.(略称:WMMI)	ハラレ	1980年 7月	201名	BT-50	MOTEC 58% マツダ 25% Workers Trust 9% 伊藤忠商事 8%
コロンビア	❹ コンパニアコロンビアナアウトモトリスS.A. Compania Colombiana Automotriz S.A.(略称:CCA)	ボゴタ	1983年 4月	620名	デミオ、アクセラ、BT-50	マツダ 95% マツダモーターインターナショナル 5%
エクアドル	❺ マヌファクトゥラス アルマドゥリアス イ レプエストス エクアトリアノス S.A. Manufacturas, Armadurias y Repuestos Ecuatorianos S. A.(略称:MARESA)	キト	1986年11月	―	BT-50	現地 100%

販売拠点

(2011年12月31日時点)

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
コロンビア	コンパニアコロンビアナアウトモトリスS.A.※1 Compania Colombiana Automotriz S.A.(略称:CCA)	ボゴタ	1973年10月※1	732名	マツダ 95% マツダモーターインターナショナル 5%

※1 コンパニアコロンビアナアウトモトリスS.A.(CCA)社は生産と販売を行っている。
マツダ車の組立生産は1983年に開始。

生産台数

(2011年12月31日時点)(台)

		2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
南アフリカ	FMCSA	5,983	5,260	3,725	3,661	3,875
ジンバブエ	WMMI	1,611	1,463	911	257	829
コロンビア	CCA	5,620	4,159	3,520	4,517	4,346
エクアドル	MARESA	6,236	8,941	6,861	8,948	8,148
イラン	バーマンモーターセンター ※2	2,886	―	―	―	―

※2 イランのバーマンモーターセンター社は2007年でノックダウン生産終了。

主要販売車種

地　域	カリブ・中南米			中近東			アフリカ		
市　場	コロンビア	チリ	エクアドル	イスラエル	サウジアラビア	UAE	南アフリカ	チュニジア	ジンバブエ
デミオ	●	●	●	●	●	●	●		
アクセラ	●	●	●	●	●	●	●	●	●
アテンザ	●	●	●	●	●	●	●	●	
プレマシー	●	●		●			●		
CX-5	●	●	●	●	●	●	●	●	
CX-9	●	●			●	●			●
ロードスター	●	●		●	●	●	●		
BT-50	●	●	●		●	●	●	●	●

販売台数

(2011年12月31日時点)(台)

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
カリブ・中南米 ※3	61,564	53,530	33,307	41,109	41,098
中近東	55,399	68,120	51,691	55,102	37,785
アフリカ	21,781	25,803	16,833	16,084	13,669

※3 メキシコを除く(北米のページ参照)。

市場およびディストリビューター数(2011年12月31日時点)

	市場	ディストリビューター数	拠点数
カリブ・中南米 ※3	34	34	212
中近東	12	12	202
アフリカ	39	27	232

※3 メキシコを除く(北米のページ参照)。

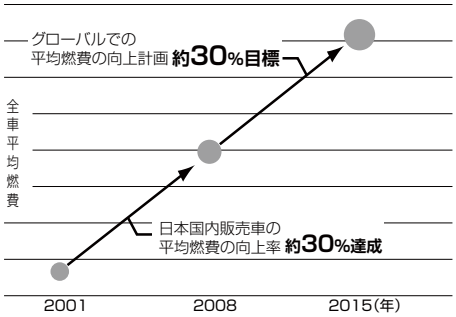
「サステイナブル “Zoom-Zoom”宣言」 ー未来に向かう長期ビジョンー

2007年3月、マツダは技術開発の長期ビジョン「サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言」を策定しました。これは、「いつまでも『ワクワク』するクルマ、『見て乗りたくなる、乗って楽しくなる、そしてまた乗りたくなる』クルマを提供し、クルマも、人も、地球も、みんながワクワクし続けられる、サステイナブルな未来の実現に向けてマツダが取り組むこと」を宣言したものです。それに基づき、マツダは、2015年までにグローバルで販売するマツダ車の平均燃費を、2008年比で30%向上させる計画を発表しています。

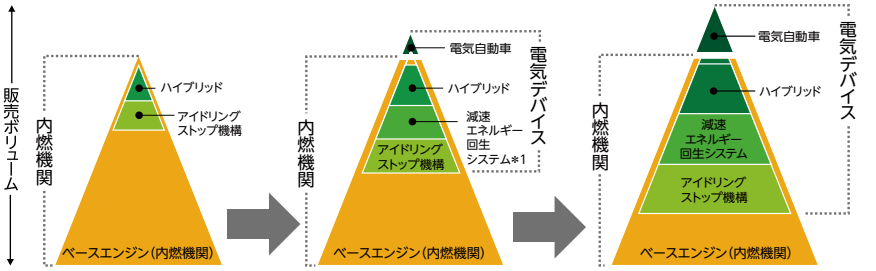
「ビルディングブロック戦略」 ー普及してこその貢献ー

近年、ハイブリッド車や電気自動車など、新しい電気デバイスを搭載した自動車が登場し、自動車の性能は、エンジン、トランスミッション、ボディ、シャシーなどと、電気デバイスとの総合力で語られる時代になりました。しかし、2020年においても、自動車のパワートレインに占める内燃機関の割合は大きいと予測されています。そこでマツダは、自動車の基本性能である「ベース技術」を優先的に改良した上で、段階的に減速エネルギー回生システムやハイブリッドシステムなどの電気デバイスを導入する「ビルディングブロック戦略」を採用しました。これは、一部の環境対応車に大きく依存することなく、すべてのお客様に、「走る歓び」と「優れた環境・安全性能」をお届けすることで、効果的にCO_2の総排出量を削減するアプローチです。

【マツダの平均燃費向上目標】

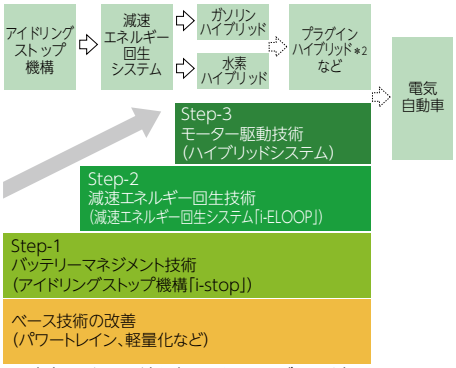


【環境技術の採用拡大展望】



＊1 減速時に生じるエネルギーを電気に置き換えて再利用するシステム。

【ビルディングブロック戦略】



＊2 家庭用電源で電池を充電できるハイブリッド車。

MAZDA SKYACTIV TECHNOLOGY

「SKYACTIV技術」は、サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言に基づいて、「走る歓び」と「優れた環境・安全性能」の高次元での両立をイメージした革新的な次世代技術の総称です。SKYACTIV技術は「ビルディングブロック戦略」に沿って展開される技術の全てを包含しています。

■SKYACTIV-G

高圧縮比エンジンの課題であったノッキング(異常燃焼)を克服し、世界一※1の高圧縮比を実現した新世代高効率直噴ガソリンエンジン。

※1 1.3Lクラス レギュラーガソリンを燃料とする量産乗用車。
(2011年5月現在 マツダ調べ)

■SKYACTIV-D

世界一※2の低圧縮比(14.0)の実現により、尿素SCRやNOx吸着触媒(LNT)などの高価なNOx後処理装置なしで、グローバルの排出ガス規制をクリアできる新世代クリーンディーゼルエンジン。

※2 2011年11月現在 マツダ調べ。

■SKYACTIV-Drive

あらゆる方式の利点を集約した高効率かつダイレクト感溢れる6速オートマチックトランスミッション。

■SKYACTIV-MT

軽快なシフトフィールと、大幅な軽量・コンパクト化を実現した新世代マニュアルトランスミッション。

■SKYACTIV ボディ

「走る歓び」を支える高い剛性と、最高レベルの衝突安全性を実現した軽量ボディ。

■SKYACTIV シャシー

ロードスター並みの「人馬一体」感を追求し、「走る歓び」を実現すると同時に快適性、安心感を高めた軽量シャシー。

■減速エネルギー回生システム「i-ELOOP(アイ・イーループ)」

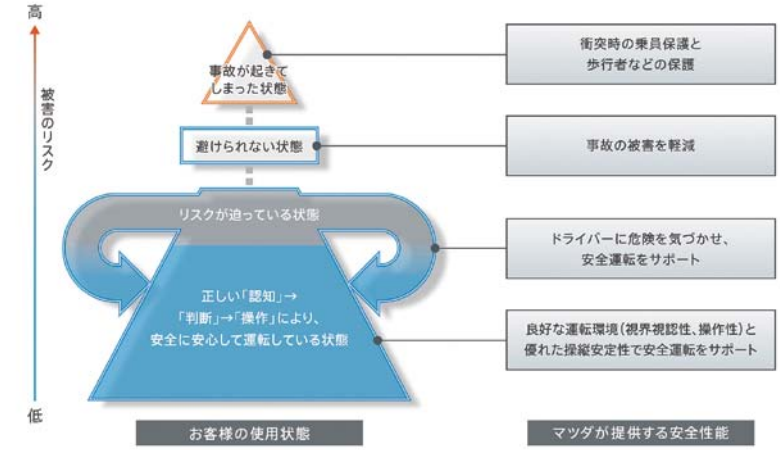
蓄電器にキャパシターを採用した減速エネルギー回生システム。キャパシターは、大量の電気を素早く充放電でき、繰り返し使用しても劣化が少ない特徴をもちます。減速時の車両の運動エネルギーを効率よく電力に変換し、クルマの電装品に使用することで、頻繁に加減速がある実用走行時での燃費改善効果が見込めます。

電気二重層キャパシター

Mazda Proactive Safety

マツダは、ドライバーが安全に運転できる状態を最大限に確保し、事故のリスクを最小限に抑制することを目指す「Mazda Proactive Safety（マツダ プロアクティブ セーフティ）」という安全思想に基づき、さまざまな安全技術の研究・開発を行っています。

■マツダが目指す安全性能の考え方



■i-ACTIVSENSE

「i-ACTIVSENSE（アイ アクティブセンス）」は、「Mazda Proactive Safety」に基づき開発したミリ波レーダーやカメラなどの検知デバイスを用いたマツダの先進安全技術の総称です。事故が避けづらい状況での衝突回避・被害軽減を図るプリクラッシュセーフティ技術に加え、認知支援を行いドライバーの安全運転をサポートするアクティブセーフティ技術で構成されています。

「i-ACTIVSENSE」技術一覧

運転支援技術	マツダ レーダークルーズコントロール（MRCC）	先行車との速度差や車間距離を認識し、設定した車速内で車間距離を自動で調整・維持することで、高速道路などでドライバーの負担を軽減します。
認知支援技術	前方衝突警報システム（FOW）	先行車を検知し、ドライバーに衝突の危険性を知らせ、衝突回避をサポートします。
	車線逸脱警報システム（LDWS）	道路上の白線を検知し、車両が意図せず車線を逸脱することを予測してドライバーに警告します。
	リアビークルモニタリングシステム（RVM）	隣（左右）のレーンや後方からの接近車両を検知し、ドライバーに車線変更時の危険を知らせます。
	ハイビームコントロールシステム（HBC）	先行車や対向車を検知し、ヘッドランプのハイビーム・ロービームを自動で切り替え、夜間の視認性を確保し危険回避をサポートします。
	アダプティブフロントライティングシステム（AFS）	ステアリングの角度と車速に応じて、ヘッドランプの向きを自動的にコントロールし、カーブや交差点などで進行方向を早めに照射して夜間時の安全運転をサポートします。
衝突回避支援・被害軽減技術	スマートブレーキサポート（SBS）	15km/h以上の速度域での走行中に、先行車と衝突の危険性がある場合、自動ブレーキにより減速を行い、衝突回避または被害軽減を図ります。
	スマートシティブレーキサポート（SCBS）	4～30km/hの速度域での走行中に、先行車と衝突の危険性がある場合、自動ブレーキにより減速・停止し、衝突回避または被害軽減を図ります。
	AT誤発進抑制制御	前方に障害物が検知された状態で、必要以上にアクセルを踏み込んだ場合、警告音とメーター表示でドライバーに注意を促すとともに、エンジン出力を抑え急発進を抑制します。

デザインテーマ “魂動（こどう）－Soul of Motion”

マツダはこれまで、さまざまな「動き」のある造形を模索してきました。その模索の中でマツダデザインがたどり着いたのは、生物が見せる一瞬の動きの強さや美しさです。この一瞬の動きをMotion Formの究極の姿として見出し、その生命感あふれる動き、心ときめかせる動きを“魂動（こどう）”と定義しました。そして、この“魂動（こどう）- Soul of Motion”というデザインテーマのもと、“動き”の表現を深化させていきます。

左からマツダ 靭（SHINARI）、マツダ 雄（TAKERI）、新型アテンザ（Mazda6）

社歴

1920－

経営

1920年	1月	東洋コルク工業株式会社として創立、海塚新八社長就任
1921年	3月	松田重次郎社長就任
1927年	9月	東洋工業株式会社に改称
1929年	4月	工作機械の製作開始
1931年	10月	3輪トラック「マツダ号」を生産開始
1932年	ー	大連、奉天、青島へ3輪トラック初輸出
1935年	10月	さく岩機の生産開始
1945年	8月	建物の一部を広島県に貸与、県庁の全機構が当社に移される（～'46年7月）
1949年	8月	3輪トラック輸出再開（インド）
1951年	12月	松田恒次社長就任
1961年	7月	独NSU社、バンケル社とロータリーエンジンに関し技術提携
1962年	1月	韓国で現地組立開始
1963年	3月	自動車生産累計100万台達成
	6月	南アフリカで現地組立開始
1965年	1月	英国パーキンスサービス社とディーゼルエンジンに関し技術提携
	5月	三次自動車試験場完成
1966年	11月	宇品乗用車専用工場完成
1967年	3月	欧州向け本格輸出開始
	4月	オーストラリアに販売会社を設立
1968年	7月	カナダに販売会社を設立
1969年	4月	ロータリーエンジン車本格輸出開始
1970年	4月	対米輸出開始
	11月	松田耕平社長就任
1971年	2月	マツダモーターオブアメリカ（MMA）設立
1972年	10月	マツダトレーニングセンター鯛尾完成
	12月	自動車生産累計500万台達成
1974年	5月	三次ディーゼルエンジン工場完成
1975年	1月	タイで現地組立を開始
1977年	12月	山崎芳樹社長就任
1978年	11月	ロータリーエンジン車生産累計100万台達成
1979年	6月	自動車生産累計1,000万台達成
	11月	フォードとの資本提携を開始
1981年	12月	防府中関変速機工場稼働開始
		「オートラマ」を設立（'82年10月より商品供給開始）
1982年	9月	防府西浦工場本格操業開始
1983年	4月	コロンビアで現地生産開始（CCA設立）
1984年	5月	マツダ株式会社へ社名変更
	10月	マツダ財団設立
	11月	山本健一社長就任
1985年	1月	米国生産会社（MMUCのちのAAI）を設立
	3月	マツダ北京事務所設立
1986年	4月	ロータリーエンジン車生産累計150万台達成
	12月	マツダR&Dセンター、アナーバー（米国）完成
1987年	4月	生産累計2,000万台を達成
	6月	技術研究所横浜研究所開設
	12月	古田徳昌社長就任
		スズキ（株）（鈴木自動車工業）との軽自動車生産協力を発表
1988年	5月	マツダR&Dセンター、アーバイン（米国）完成
1989年	4月	「ユーノス」「オートザム」設立
	6月	東京支社を東京本社に呼称変更
1990年	5月	マツダ欧州R&D事務所（MRE）完成
	12月	生産累計2,500万台達成

商品

1931年	10月	マツダ初の自動車、3輪トラック「マツダ号」新発売
1950年	6月	マツダ初の小型4輪トラック「CA車」新発売
1958年	4月	小型4輪トラック「ロンパー」新発売（後に「Dシリーズ（クラフト）」「Eシリーズ（タイタン）」へ派生）
1960年	5月	軽乗用車「R360クーペ」新発売
1961年	2月	軽4輪トラック「B360」新発売（後に「ポーター」へ改称）
	8月	小型4輪トラック「B1500」新発売（後に「プロシード」へ改称）
1962年	2月	軽乗用車「キャロル」新発売
1963年	10月	「ファミリア800バン」新発売
1964年	10月	「ファミリアセダン」新発売
1965年	5月	ライトバス新発売（後に「パークウェイ」へと改称」）
1966年	5月	「ボンゴ」新発売
	8月	「ルーチェ」新発売
1967年	5月	初のロータリーエンジン搭載車「コスモスポーツ」新発売
1969年	4月	軽4輪トラック「ポーターキャブ」新発売
	10月	中型トラック「ボクサー」新発売
1970年	5月	「カペラ」新発売
1971年	9月	「グランドファミリア」新発売
		「サバンナ」新発売
1972年	6月	軽乗用車「シャンテ」新発売
1975年	3月	「ロードペーサー」新発売
	10月	「コスモ」新発売
1978年	3月	「サバンナRX-7」新発売
1980年	12月	5代目「ファミリア」が「1980-1981日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
1982年	12月	4代目「カペラ（テルスター）」が「1982-1983日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
1983年	6月	「ボンゴブローニイ」新発売
1986年	2月	「フェスティバ」新発売
1987年	1月	「エチュード」新発売
1988年	10月	「ペルソナ」新発売
1989年	6月	「スクラム」新発売（スズキ（株）からのOEM）
	9月	「ユーノスロードスター」新発売
	11月	「ユーノス100」「ユーノス300」新発売

1991年	6月	第59回ル・マン24時間レースでマツダ787Bが日本車史上初の総合優勝
	11月	「マツダオート」チャネルを「アンフィニ」に変更
	12月	和田淑弘社長就任
1992年	2月	防府第2工場が本格操業を開始
	4月	「マツダ地球環境憲章」を制定
	9月	中国で現地生産を開始
1993年	3月	環境に関する行動推進計画を策定
	5月	米国AAIでの生産累計100万台達成
1994年	11月	国内自動車メーカーで初めて「ISO9002」規格の認証を取得
1995年	4月	生産累計3,000万台達成
	11月	タイでAAT設立（工場着工は翌年2月）
1996年	4月	「アンフィニ」店を「マツダアンフィニ」店に呼称変更
		「ユーノス」店を「マツダアンフィニ」店または「マツダ店」に統合
	6月	開発からアフターサービスまでカバーする「ISO9001」を国内自動車メーカーで初めて取得
		ヘンリーD. G. ウォレス社長就任
1997年	6月	「新ブランドシンボル」を制定
	10月	北米事業を統合（MNAOスタート）
	11月	ジェームズE. ミラー社長就任
	12月	倫理委員会を設置
1998年	1月	社章を変更
	3月	欧州事業を統合（現MMEスタート）
	4月	プロダクトフィロソフィーを制定
	5月	AATで生産開始
	8月	マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V.（MLE）を設立
	9月	防府工場・西浦工場がISO14001を取得
	12月	AATより輸出開始

1999年	6月	AAIが生産累計200万台を達成
		三菱自動車と小型商用車のOEM供給で合意
	9月	防府工場が環境ISO認証の取得を完了
	12月	マーク・フィールズ社長就任
2000年	4月	通商産業省の支援による燃料電池電気自動車の実車走行試験・共同プロジェクトに参加
	6月	全国内生産拠点でISO14001認証を取得
	7月	メディアウェブサイトを開設
		マツダ、乗用車共通の「ブランドDNA」を策定
	8月	タイ製ピックアップトラックが生産累計10万台を達成
	11月	中期経営計画「ミレニアムプラン」を発表
2001年	1月	低コストの塗膜除去技術を活用した回収バンパー再生材の用途を拡大し、新車のバンパー補強用部品に採用
	2月	日本初、インターネットを使った受注生産（BTO）を開始
	9月	宇品第2工場を閉鎖（～'04年5月）
2002年	1月	防府工場が累計生産台数500万台を達成
		北海道 中札内試験場を竣工
		MZRエンジンの生産を国内で開始
	3月	事業所内保育施設「わくわくキッズ園」を設置
	4月	新ブランドメッセージ「Zoom-Zoom」を展開
	5月	執行役員制度を導入するなどコーポレートガバナンスを強化
	6月	ルイス・ブース社長兼CEO就任
	8月	マツダレンタリースのリースカー事業を住銀オートリースに売却
	9月	マツダアステック（さく岩機製造）をサンドビックグループに営業譲渡
	12月	経営諮問委員会を設置し、コーポレートガバナンスを強化

1990年	1月	「MPV」新発売
	4月	「ユーノスコスモ」新発売
	9月	「レビュー」新発売
1991年	5月	「センティア」新発売
	6月	「ユーノスプレッソ」「AZ-3」新発売
	10月	水素RE自動車「HR-X」を東京モーターショーで発表
		「クロノス」新発売
	11月	「アンフィニMS-6」「アンフィニMS-9」新発売
1992年	1月	「MX-6」新発売
	2月	「ユーノス500」新発売
	3月	「アンフィニMS-8」新発売
	5月	「クレフ」新発売
	10月	軽自動車「AZ-1」新発売
	11月	天然ガスエンジン搭載乗用車を開発
1993年	1月	「ユーノスロードスター」ベースの高性能電気自動車を開発
	4月	ミラーサイクルエンジンの開発に成功
	9月	「ランティス」新発売
	10月	「ユーノス800」新発売
1994年	2月	「タイタン」天然ガストラックを開発
	9月	軽自動車「AZ-ワゴン」新発売（スズキ（株）からのOEM）
		商用車「ファミリアバン」、日産自動車（株）からのOEM供給に（5代目）

1995年	2月	「プロシードレバンテ」新発売（スズキ（株）からのOEM）
	6月	「ボンゴフレンディ」新発売
1996年	8月	「デミオ」新発売
	10月	初代「デミオ」が「RJCニュー・カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
1997年	12月	燃料電池電気自動車「デミオFCEV」を開発
1998年	5月	小型キャブオーバーバンの電気自動車「ボンゴEV」を発売
	10月	軽自動車「AZ-オフロード」新発売（スズキ（株）からのOEM）
		軽自動車「キャロル」、スズキ（株）からのOEM供給に（4代目）
1999年	3月	軽自動車「ラピュタ」新発売（スズキ（株）からのOEM）
	4月	アルデヒド除去剤「ライフ・ブレス」を開発
		「プレマシー」新発売
2000年	7月	「ロードスター」が"世界で最も多く生産された2人乗り小型オープンスポーツカー"としてギネスに認定（565,779台）
	10月	「タイタンダッシュ」新発売
	11月	「トリビュート」新発売
2001年	2月	燃料電池自動車「プレマシーFC-EV」を開発、国内初の公道走行試験を開始
	12月	新世代モジュール基材用の高強度プラスチック技術を開発
2002年	2月	軽自動車「スピアーノ」新発売（スズキ（株）からのOEM）
	5月	次世代商品第一弾として、「アテンザ」新発売
	7月	機械加工時の切削液の使用量を大幅削減する「セミドライ加工」で環境への負荷を軽減
		世界初の環境にやさしい「スリー・ウエット・オン塗装技術」を開発し、揮発性有機化合物と二酸化炭素（CO_2）を削減
	11月	初代「アテンザ」が「2003RJCカー・オブ・ザ・イヤーを受賞」
	12月	先進安全自動車（ASV）の公道走行試験を開始

社歴

2003－

経営

2003年	1月	新世代ロータリーエンジン「RENESIS」の生産を開始
		中国一汽乗用車で「Mazda6」の生産開始
		フォード バレンシア工場（欧州）で「Mazda2」の生産を開始（～'07年6月）
	7月	いすゞ（株）と小型トラックのOEM供給で合意
	8月	井巻久一社長兼CEO就任
2004年	2月	販売系列全店で軽自動車の扱いを開始、登録車も併売を拡大
	4月	国内生産体制再編のため、本社第1工場での生産を終了
	5月	国内生産体制再編のため、宇品第2工場を再稼働
	9月	マツダレンタカーの全株式を譲渡
	12月	宇品第1工場で火災発生
2005年	2月	本社敷地内に水素ステーションを開設
		創業85周年を機に「マツダミュージアム」全面リニューアル
	4月	広島大学大学院工学研究科と自動車の先進技術の研究協力で契約
		新生宇品第1工場塗装ライン稼働
	5月	マツダ地球環境憲章を改訂し、環境への取り組みをグループでの強化へ拡大
	6月	中国事業を統括する「マツダ（中国上海）管理諮詢有限公司（MCO）」の開所式を実施
	8月	統括会社「マツダサウスイーストアジア リミテッド（MSEA）」をタイに設立
		中国技術支援センターを開設
2006年	1月	三菱商事とエネルギー供給会社「MCMエネルギーサービス（株）」を設立
	2月	「Mazda3」を長安フォード重慶工場で生産開始
	4月	マツダオートザム　販売累計台数100万台達成
	5月	美祢自動車試験場を開設の開所式を実施
	7月	自動車運搬船「クーガーエース」事故発生
	9月	AAIが生産累計300万台を達成
	10月	マツダオフィシャルウェブサイトを刷新
2007年	3月	新中期計画「マツダ アドバンスメント プラン」を策定
		技術開発の長期ビジョン「サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言」を策定
	4月	長安フォードマツダエンジン工場（南京）でのエンジン量産開始
	5月	厚生労働省の次世代認定マーク「くるみん」を取得
		ロータリーエンジン車発売40周年を迎える
	7月	国内生産累計4,000万台を達成
		AATが生産累計100万台を達成
		業界初となる、V型6気筒エンジンと直列4気筒エンジンの混流生産を実現
		専用コンテナでの鉄道往復輸送によるグリーン物流システムを構築
	10月	「Mazda2」を長安フォードマツダ南京工場で生産開始

商品

2003年	2月	摩擦熱を利用したアルミ材接合技術を世界で初めて開発
	4月	優れた歩行者保護性能を持つ衝撃吸収構造アルミボンネットを開発
	5月	PM排出量を現行比で75%以上削減するディーゼルエンジン用の排出ガス低減技術を開発
	6月	「RENESIS」が「インターナショナル・エンジン・オブ・ザ・イヤー2003」を受賞
	9月	塗膜除去率を99.9%まで高めるバンパーリサイクルのための新技術を開発し、「バンパーtoバンパー」リサイクルを実現
	10月	「アクセラ」新発売
	11月	「RENESIS」が「RJCテクノロジー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
		「RX-8」が「2004RJCカー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
	12月	「Mazda6」が中国の「2004年カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
2004年	5月	「RENESIS」が「インターナショナル・エンジン・オブ・ザ・イヤー2.5～3.0リットル」部門賞を2年連続で受賞
	6月	「ベリーサ」新発売
	10月	RX-8水素ロータリーエンジン車の公道走行を開始
	11月	マツダのスリー・ウエット・オン塗装技術が地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受賞
2005年	3月	「バンパーtoバンパー」リサイクル技術をRX-8から新車のバンパーに導入開始
	4月	新生宇品第1工場塗装ラインにスリー・ウエット・オン塗装方式を採用
	6月	世界初、摩擦熱を利用した鉄とアルミ材の点接合技術を開発
	7月	新開発した下塗り塗料により、塗装工程における環境負荷をさらに低減
	11月	3代目「ロードスター」が「2005-2006日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
2006年	2月	水素ロータリーエンジン車 「RX-8ハイドロジェンRE」 の限定リース販売を開始
	5月	産学官の連携で、自動車内装部品用に高強度、高耐熱性を持つバイオプラスチックを開発
	11月	「MPV」2.3L　DISIターボエンジン車がエコプロダクツ大賞推進協議会会長賞（優秀賞）を受賞
	12月	「CX-7」新発売
2007年	6月	マツダ、広島地区におけるITS公道実証実験に参加
	9月	植物由来100%の繊維からなる自動車内装用バイオファブリックを開発
	10月	世界初となるシングルナノテクノロジーを活用した触媒材料構造を持つ自動車用触媒を開発
	11月	3代目「デミオ」が「2008年次RJCカーオブザイヤー」を受賞
		ノルウェー国家プロジェクトHyNor（ハイノール）に参画し、2008年夏から水素ロータリーエンジン車をノルウェーに納入

2008年	2月	日本初の「人権擁護功労賞」受賞
	3月	自動車販売金融事業における戦略的提携を実施
	4月	国内販売会社に環境マネジメントシステム「エコアクション21」を導入
	6月	ブランドを視覚的に表現するグローバル・ビジュアル・アイデンティティを導入
		CO_2排出量削減に向けた取り組みを発表 —2015年までにグローバルでマツダ車の燃費を30%向上—
	7月	全国規模の部品販売会社、マツダパーツ株式会社を設立
	9月	シベリア鉄道を利用した車両輸送を開始
	10月	マツダミュージアム来場者100万人達成
	11月	山内孝社長兼CEO就任
	12月	新広島市民球場の命名権契約を締結し、「Mazda Zoom-Zoom スタジアム広島」と命名
2009年	3月	「マツダ(中国)トレーニングセンター」を北京、上海、深センに開設
	4月	一汽マツダ汽車販売有限公司に増資し、出資比率を25%から40%に引き上げ、販売網を強化
	7月	AAT新乗用車工場完成
2010年	3月	トヨタとハイブリッドシステムの技術ライセンス供与に合意
	4月	広島大学とマツダ財団の連携事業「科学わくわくプロジェクト」が、「平成22年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞」を受賞
	9月	「ひろしまの森林(もり)づくりフォーラム」に加入し、「マツダの森」を通じた地域の森林保全活動に協力開始
2011年	1月	日産とマツダ、新たなOEM供給契約を締結
	2月	広島大学と包括的連携に関する協定を締結
	6月	住友商事とメキシコでの生産事業およびブラジルでの販売事業で合弁事業に合意
		社外取締役制度を導入
	10月	住友商事とメキシコ新工場の起工式を実施
		ベトナム「ヴィナマツダ社」の新工場で「Mazda2」の現地組立を開始
2012年	1月	マツダ病院の新棟(入院棟)を竣工
	5月	フィアット社とオープン2 シータースポーツカーの開発・生産に向けた協議を開始
	7月	「SKYACTIV-G」、「SKYACTIV-D」エンジンの年間生産能力を80万基に増強
	9月	ロシアのソラーズ社と、現地合弁生産会社「マツダソラーズ」を設立
		マレーシアのベルマツ社との合弁会社「マツダ・マレーシア」を設立
	11月	トヨタと、マツダのメキシコ新工場におけるトヨタ車の生産について合意

2008年	1月	「CX-9」が「2008 North American Truck of the Year」を受賞
		広島地区の産学官共同でITS公道実証実験を実施
		国内初のリアビークルモニタリングシステムを実用化
	3月	3代目「Mazda2」が「2008世界カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
		先進安全自動車「マツダASV-4」の公道走行試験を開始
	6月	食糧と競合しないバイオプラスチックの技術開発に、産学官連携で2013年までの実用化を目指して着手
		「マツダ プレマシー ハイドロジェンREハイブリッド」の国土交通大臣認定を取得
	7月	「ビアンテ」新発売
	9月	直噴エンジンの技術を活用した独自のアイドリングストップ機構「アイ・ストップ(i-stop)」を開発
		出力性能と環境性能を大幅に向上させた新型クリーンディーゼルエンジンを開発
		樹脂の使用量を30%削減できるプラスチック成形技術を開発
2009年	1月	貴金属の使用量を約70%削減できるシングルナノ触媒を世界で初めて実用化
	2月	マツダ、ITS合同実証実験「ITS-Safety 2010」に参加
	3月	世界初の廃車バンパーリサイクル自動化技術を開発
		日本メーカー初の乗用車用尿素SCRシステムを開発
		世界初のハイブリッドシステム搭載水素ロータリーエンジン車「マツダ プレマシー ハイドロジェンREハイブリッド」のリース販売を開始
	6月	世界で最も環境負荷の少ない新水性塗装技術「アクアテック塗装」を開発、宇品第一工場への導入を開始
	11月	「i-stop」が「2010年次RJCテクノロジーオブザイヤー」を受賞
		「i-stop」を搭載した「アクセラ」と「ビアンテ」が第6回エコプロダクツ大賞を受賞
		マツダ、「つくば環境スタイル実証プロジェクト」に参画し、電気自動車のベース車両として「マツダ デミオ」を提供
2010年	9月	「動き」を表現した新デザインテーマ“魂動(こどう)—Soul of Motion”を発表
		「アテンザ」、世界累計生産200万台を達成
	10月	次世代技術「SKYACTIV」を発表
2011年	2月	「ロードスター」が累計生産90万台を達成、ギネス記録更新を申請
	5月	「アクセラ」が世界累計生産300万台を達成
	6月	高効率直噴ガソリンエンジン「SKYACTIV-G 1.3」を搭載した「デミオ」を発売
	9月	SKYACTIV技術搭載第2弾となる「アクセラ」を発売
	11月	「RX-8」の最後の特別仕様車「SPIRIT R」を発売
		新型エンジン「SKYACTIV-G 1.3」が「2012年次RJCテクノロジーオブザイヤー」を受賞
		乗用車用として世界で初めてキャパシターを採用した減速エネルギー回生システム「i-ELOOP」を開発
2012年	2月	「SKYACTIV技術」を全面採用し、先進安全技術「スマート・シティ・ブレーキ・サポート」を搭載した、新型クロスオーバーSUV「マツダ CX-5」を新発売
	6月	軽自動車「マツダ フレアワゴン」を新発売(スズキ(株)からのOEM)
	10月	「デミオEV」のリース販売を開始
	11月	「マツダ CX-5 SKYACTIV-D2.2」が、「2012-2013日本自動車殿堂カーテクノロジーオブザイヤー」を受賞
		先進安全技術「i-ACTIVSENSE(アイ アクティブセンス)」を搭載した、3代目「アテンザ」を発売
		「CX-5」が「2012-2013 日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞

■最新情報について

「会社の概要」および「役員」に関する情報に変更があった場合、最新の情報を下記URLのホームページにて掲載します。

http://www.mazda.co.jp/corporate/profile/outline/library.html

■マツダ株式会社のその他の情報開示ツール

会社概況に加えて、以下のツールでもマツダの考え方、活動、データの情報開示をしています。

サステナビリティレポート2012

マツダのCSR(企業の社会的責任)についての報告書
http://www.mazda.co.jp/csr/download/index.html

アニュアルレポート2012

マツダの投資家向け年次報告書
http://www.mazda.co.jp/corporate/investors/library/annual/

有価証券報告書など

http://www.mazda.co.jp/corporate/investors/library/s_report/

マツダ株式会社

発　行：マツダ株式会社 広報本部

広島本社:広島県安芸郡府中町新地3-1 〒730-8670
東京本社:東京都千代田区内幸町1-1-7 〒100-0011

発行年月:2012年12月

マツダコールセンター 0120-386-919
受付時間／月～金 9:00～17:00
土日・休日 9:00～17:00(12:00～13:00を除く)

マツダホームページURL
http://www.mazda.co.jp/

zoom-zoom